

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。													
領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価・授業評価アンケートにおける 該当質問項目 (職は職員、保は保護者、生は生徒、 授は授業評価、地は地域アンケート)		アンケート回答率 肯定的 回答 否定的 回答		自己評価の結果  (達成状況、結果の分析)	改善方策  (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ		
総合				生	1	佐倉高校に入学して良かったと思う。	94.0	6.0	学習指導、生徒指導、キャリア教育などで概ね、生徒・保護者の入学への満足度は高い。	改善策のとおりでよい。	生徒・保護者アンケートの数値は、昨年度より上回っている。		
				保	1	佐倉高校に入学させて良かったと思う。	98.4	1.6					
学校経営	教職員間でのコミュニケーションの充実を図り、明るく楽しい職場環境を作る。働き方改革への仕組づくりと共通理解を図り、高い倫理感や危機管理意識を保持し、不祥事・不適切指導ゼロの徹底を目指す。	①教職員間のコミュニケーションを充実させるとともに、日常業務について危機管理の視点から自己点検をする機会を設け、円滑な業務遂行と業務改善を図る。	①職員による評価アンケートの結果及び自己点検の実施状況	職	9	私は、学校の教育課題について、日ごろ教職員間でよく話し合っている。	83.1	16.9	職員個人は、目標申告記入の機会・自己点検を通じて教育公務員としての襟を正し、教科・分掌・学年においては、会議等を通し問題点を共有した。ICT機器についての環境が整い、円滑に業務を遂行できる様になり職員間の情報共有と連携が深まっている。その結果、職員相互の学校課題に対する話し合いが行われている。	様々な機会をとおし、自己点検・研修を継続し不祥事を絶対に起こさない。また、様々な業務においてICT機器を活用して効率化を図り、生徒に関する課題に対処する時間を確保する。例えば、朝の打合せ等でもICT機器を活用し、会議の時間短縮を図る。また、業務分担を見直しを行い、更に分掌間・学年間の情報共有をの円滑化を図るためICT機器を活用していく。	① 改善策のとおりでよい。 明るく、楽しくの気持ちがあれば、先生方も働きやすいので良いと思う。課題に対して、早めに職員へ伝えて考えてもらうことは大変良い。	① ICTを活用して業務改善を図るとともに、情報共有を図ることで、職員が課題解決に向けて円滑に話し合いができるようにする。 職員の18番アンケートの数値は、大幅に上昇した。	
				職	18	ホームルーム活動を主とした学級経営の点検・改善に、学年と学校の全体で取り組んでいる。	87.7	12.3					
			②分掌・学年・教科の連携を強化し、進学指導重点校・SGH・SSH指定校・英語教育拠点校として取組の質的向上を図る。	②職員による評価アンケートの結果	職	11	教材の精選と指導方法の改善・工夫を行っている。	100.0	0.0	SGH事業及び英語教育拠点校、進学指導重点校としての取組は新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるなか、制約のあるなか進めることができた。その結果、学習活動の質の向上に寄与することができ、全体での満足度の高評価につながった。SSHについては、2期目の指定のなか、更なる理数教育の充実に向け、生徒の学びたいという気持ちをより一層喚起するために指導方法の改善工夫を行っている。	概ね今年度の活動を継続しつつ、それぞれの指定校として実施すべき内容を関連づけて最大限の効果があるよう工夫する。1年については、普通科・理数科とも探究学習の基礎について、学校全体で取り組む体制を継続し内容の充実を図る。また、生徒に学習の意義を捉えさせるとともに、生徒が、より一層主体的に学習に取り組めるようにする。	② 改善策のとおりでよい。	② 探究学習の基礎を学ぶ時間を充実させ、学校全体でSSH事業の質的向上に取り組むとともに、他の指定事業との相乗効果を図る。
					職	13	職員間に、互いの授業を参考にして授業を改善する雰囲気がある。	90.8	9.2				
		③生徒の安全を確保し教育環境を整備する。	③生徒、保護者による評価アンケートの結果及び安全点検表及び修繕状況の確認	生	4	学習環境は整備され満足している。	71.7	28.2	施設面では、経年劣化については、改善が難しい面がある。今年度は、武道場の天井撤去工事が無事終了した。生徒への健康・安全に関する指導も、教職員間で連携し適切な指導が行われている。アンケート項目にはないが、全校体制で学校安全点検を実施している。危険個所、破損個所等については、速やかに改修した。	今年度同様、学校安全点検を的確に実施し、破損箇所等の修繕を可能な限り速やかに行う。清掃活動を充実させるとともに、安全衛生上の課題について生徒にも呼びかけて情報を集め、改善する。業者による清掃・ワックスがけを行う。引き続き、生徒への安全指導を行う。学校評価アンケートの項目を見直し、この項目に適する問いを入れる。	③ 改善策のとおりでよい。	③ 学校安全点検を的確に実施するとともに、日常的に職員・生徒から情報を収集し、危険個所・破損個所破損箇所等の修繕を可能な限り速やかに行う。	
				生	17	学校には、悩みなどの相談に乗ってくれる先生が多くいて安心できる。	86.4	13.4					
				保	17	生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われている。	92.2	7.1					
		④教育活動の成果をホームページ等を通じて最大限にアピールする。	④保護者・地域による評価アンケートの結果及びホームページの掲載内容と更新状況の確認（月5回以上の更新）	保	20	学校のホームページ等、情報発信を適切に行われている。	88.5	10.9	学校行事やSSH・SGHの取組を中心に平均月10回程度の更新を行った。部活動によっては、活動内容に差があり、情報発信の頻度にも差がある。	ホームページをより充実させるために、職員の広報に係る意識向上を図る。職員全員が発信者となり、即時性を高めていく。生徒用のアンケート項目を保護者向け同様に変更する。	④ 改善策のとおりでよい。	④ ホームページによる発信は、できるだけ速く的確に行うとともに、より見やすくなりやすい内容にする。	
				地	9	佐倉高校は、魅力ある学校づくりをしている。	100	0.0					
		⑤働き方改革に関しては、部活動の指導時間が超過勤務の多くを占める現状から部活動ガイドラインにそった形で部活指導時間の短縮・効率化を促す。	⑤職員による評価アンケートの結果及び勤務時間調査による実態把握と適切な面接等の実施	職	19	私は、顧問どうして連絡・協力し合い、部活動指導に当たっている。	92.3	6.2	教職員は、連絡・協力し合い、部活動指導に当たっている。ただし、部活動・顧問によっては、試合や大会日程等の関係で連続勤務になる場合が、生じている。複数顧問による交代制の実現や、土日どちらかを休むなどのガイドラインに沿った指導がかなり出来てきている。	引き続き、保護者や生徒への理解を進めるとともに、部活動のガイドラインの沿った指導の徹底を図る。部活動によっては、試合や大会等の関係で連続勤務になる場合があるが、複数顧問による交代ができる体制を作る。	⑤ 改善策のとおりでよい。	⑤教職員の勤務実態を見ながら、働き方改革を推進する。水曜日のノー残業デーを推進する。繁忙期以外に年休を取りやすくするなどの工夫や声かけを行う。	
		⑥月ごとの勤務時間調査を精査し、超過勤務者に業務の手順の改善を促すとともに、ICTを活用し情報の共有化を図ることで、会議や打合せを効率的に行う。	⑥勤務時間調査による実態把握と適切な面接等の実施					若い世代を中心に、ベテランも含めてICTの活用が進んでいる。今後更に活用を進める予定である。より効率的な校務の遂行方法を模索している。また、45時間を超える超過勤務者には、面談を行い、長時間労働の危険や弊害を伝え意識改革を進めた。	引き続き、長時間労働の危険や弊害を伝え、意識改革を進める。また、ICTを活用した校務の効率化を行う。分掌の再編や校務の精選を行い、よりICTの活用をすすめ、チーム佐倉としてより効率的な校務の遂行をはかる。週1回の定時退勤日を作る。	⑥改善策のとおりでよい。	⑥資料の事前配付や、ICTの活用による資料準備の軽減等で会議の短時間化や校務の効率化をはかり勤務時間の短縮をはかる。		
		学習指導	教科指導や探究学習指導の質的向上と進学指導重点校として第一志望合格を保証する現役主義の進路指導の充実のもと学力向上を図る。	①生徒の知的好奇心を一層喚起するとともに、生徒が主体的に目標を設定し自らの学びを振り返ることのできる授業を展開する。	①生徒、保護者による評価アンケートの満足度が85%以上であること	生	8	私は授業内容に興味関心がわいている。	87.0	12.8	生徒の学習意欲を高めるよう全ての科目の授業において、科目の特性に合わせた活動を取り入れた。また、学習のチェックシートやルーブリック評価等を用い、生徒自身が学習を振り返る機会を設けた。87%の生徒が授業内容に興味関心を抱き、保護者についても90%以上の方が肯定している。目標値の85%に達した。	引き続き、生徒が自分自身で学びを振り返るための評価の工夫を各教科・科目の特性に合わせて充実させるとともに、生徒の知的好奇心を一層喚起する質の高い授業を展開できるよう工夫する。	① 改善策のとおりでよい。 新型コロナ感染症への対策・対応をはかりながら、授業を進めていただいて、教職員の方々には大変感謝している。
保	7					授業はよく工夫されていてわかりやすいと思う。	90.6	8.0					
②探究学習を中心としたSSH・SGH事業に係る学習活動を充実させる。学習の定着度を高めるとともに深く学ぼうとする姿勢を育成する。	②生徒による授業評価アンケート結果			授	5	私は、授業内容に興味・関心がわいている。	91.7	8.3	教員アンケートにもあるように、教員は生徒の興味関心が高まるよう授業内容・教材・教え方を工夫している。授業においては、SSH・SGH事業に係る学習活動については、改善しつつ充実を図った。生徒の授業に対する興味関心も高く、授業によって生徒の思考力・判断力は高まっている。	引き続き、授業における深い学びに結びつくための知識の習得を課すとともに、その成果が見えるように工夫する。また、より思考力・判断力の育成に力を注ぐ。SSH事業に係る学習活動については改善を進めより質の高い内容にし、課題研究については研究をより一層深めることができるよう指導する。	② 改善策のとおりでよい 生徒に目標や目的を持たせて取組ませることは、とても大事である。学び方を学ぶことも大変良いことだと考える。	② 家庭学習と授業での学習の関係をより明確にして学習に取り組ませるとともに、生徒が思考を深めることのできる授業となるよう工夫する。	
				授	7	私の思考力・判断力は授業によってさらに高まっている。	89.9	10.0					
③積極的な授業研究、公開授業、研修等を通して、質の高い指導方法や生徒が主体的に学びを振り返ることのできる評価方法を研究し、授業力を高める。	③生徒による授業評価・学校評価アンケートの結果及び授業研究や研修等の実施状況			授	10	先生は、授業内容・展開の仕方・教材・教え方などを工夫している。	92.4	7.6	校内授業研修週間を年2回設け、相互参観・相互評価を行うとともに、研究授業等への積極的な参観や、英語拠点校公開授業において外部に授業を公開し協議会で研修を深めた。授業は理解しやすいと92%以上の生徒が感じており、授業に係る教師の工夫について94%以上の生徒が肯定的に捉えていることから、目標は概ね達成できたものと捉えている。	新学習指導要領に基づく評価方法の研究を行い、職員対象の研修を実施する。引き続き、校内授業研修週間を実施し、相互参観・相互評価を引き続き行う。また、英語教育拠点校として本校の授業を発信し、外部からの評価等も得て授業力向上に結びつける。	③ 改善方策のとおりでよい。	③ 授業力を向上させるために授業の相互参観・相互評価を引き続き行う等、校内研修を充実させるとともに、本校の授業を発信し外部からの評価等も得て授業改善に取り組む。	
				生	11	教師は授業内容や展開の仕方、教材等、教え方等を工夫している。	94.2	5.8					

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。											
領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価・授業評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員、保は保護者、生は生徒、授は授業評価、地は地域アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
						肯定的 回答	否定的 回答				
生徒指導	佐倉高校生としての自覚を促し、自立した高校生の育成を目指すとともにすべての教職員で取り組むメンタルケアを中心とした教育相談体制の充実を目指す。	①挨拶指導や通学マナーを身に付けさせる指導を行うとともに自己管理能力を育成する。	①生徒、保護者、地域による評価アンケートの結果及び指導の実施回数・実施状況、	生22	私は、日常生活で学校の規則を守り、挨拶ができています。	94.9	4.8	登下校指導週間を年間3回設け、挨拶指導や登下校の指導に当たった。また、集会時やホームルーム等で指導を行った。アンケート結果では、生徒や保護者の評価も高い。ミニ集会において地域から生徒の登下校の在り方について指摘があり、職員による登下校指導のほか、PTAによる下校指導を行ない改善しつつある。	次年度も登下校指導週間を実施するとともに、生徒の登下校の在り方についてホームルーム等で引き続き指導を行なう。また、PTAとの連携しながら今後も安全指導を行う。生徒の自己管理能力については、自己のスケジュール管理を通して規則正しい生活習慣を身に付けさせると共に危機管理に係る意識を育成する。	① 改善方策のとおりで良い。道路事情を考えるとやむを得ないところもある。生徒が自分を守る意識を高めてほしい。引続き、交通マナーについて指導して欲しい。	① 登下校指導を今年度に引き続き実施するとともに、生徒の安全意識を高める指導を行う。
				生23	私は、交通ルール・乗車マナーをわかまえて実践している。	98.2	1.8				
				保15	基本的な生活習慣が身に付くような指導が行われている。	91.4	7.7				
				地7	佐倉高校の生徒は、交通安全に心がけて通学している。	66.7	22.2				
		②特別活動や部活動等、多様な体験活動のできる機会を設け、集団の中の一員としての自覚を持たせる。	②生徒、保護者による評価アンケートの結果	生14	部活動や学校行事等は充実していて学校生活は楽しい。	88.5	11.3	特別活動において、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、文化祭や体育祭を中止した。部活動においても、各種大会が中止になった。SSH・SGHに係る活動においては、グループ活動のあり方や、企業等を訪問ができず影響を受けた。結果として特別活動や部活動についての生徒及び保護者の満足度は、昨年度比で下がる結果となった。	特別活動、部活動、SSHに係る活動を活用し、多くの体験活動に参加させるとともに、社会との接点を多く設け、社会の一員としての自覚を高めるとともに、社会に貢献しようとする意識を高める。	② 改善策のとおりでよい。	② SSHに係る活動や探究活動に積極的に校外での活動や体験活動を取り入れる。
				生15	ホームルーム活動は活発で、クラス全体で関わっている。	82.3	17.7				
				保13	部活動や学校行事等は活発である。	91.4	8.2				
		③個人面談、保護者面談及び生徒の調査等を行い、いじめや生徒の抱える課題を早期発見し、情報を多くの職員で共有し、早期対応する。	③生徒、保護者による評価アンケート結果及び、生徒へのいじめアンケート及び生徒、保護者への面談	生18	学校は、いじめ防止に向けて取り組んでいる。	89.0	10.9	いじめ防止に関しては、いじめ調査アンケートを年2回実施している。結果を分析し、すぐに対応している。調査結果は、保護者にも通知している。全てのホームルームで個人面談及び保護者面談を実施するとともに、生徒の生活実態、人間関係、直面している課題等について調査を行った。生徒の実態を把握し、生徒の抱える課題に対応できた。	個人面談及び保護者面談の確実に実施するとともに、諸調査を定期的に行い、生徒の実態把握に努める。また、生徒が抱える課題については速やかに組織的に対応する。引き続き、いじめ調査アンケートを実施する。	③ 改善方策のとおりで良い。集団生活の中では、他者理解が大事である。個性と個性がぶつかり合えば、摩擦は生じる。集団の中にはリーダーが必要であり、リーダーのあり方も時代と共に変わってきている。その育成を目指して欲しい。	③ 定期的に面談及び調査等を実施し生徒の実態を把握する。いじめを含む生徒が抱える課題を早期発見し速やかに組織的に対応する。
				保18	学校は、いじめ防止に向けて取り組んでいる。	91.8	6.9				
		④学年、教育相談委員会、関係機関との連携を強化し、教育相談体制を充実させる。	④職員、生徒による評価アンケートの結果及び教育相談委員会の実施状況及び教育相談室・教育相談に係る保健室の利用状況	職17	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員と相談できる。	98.5	1.5	生徒の相談に対して学年と教育相談委員会で十分に情報を共有し対応した。また、問題を抱える生徒・保護者と外部のスクールカウンセラーと連携し、面談を積極的に設定した。更に保健日誌及び学校日誌を毎日チェックし情報共有し、保健室や教育相談室に訪れる生徒に丁寧に対応することで、保健室や相談室がカウンセリング機能を果たしている。	生徒の相談内容が容易に解決できないものになっているとともに相談件数が増えていることから、教育相談委員会を中心に関係職員と情報を共有し連携して対応する。また、外部機関とも連携を密に対応する。	④改善方策のとおりで良い。心の問題は大事であり、カウンセラーが配置されたことは良かった。生徒の人間力の育成に力を注いで欲しい。	④ 心の問題について早期対応早期解決できるよう職員、家庭、スクールカウンセラーや外部機関との連携を一層密にして組織的に対応する。スクールカウンセラーが配置され、アンケート結果は大きく上昇した。
				生17	悩みなどの相談に乗ってくれる先生が多くいて安心できる。	86.4	13.4				
キャリア教育	将来の目標を明確にすることができるよう、ガイダンス機能や講演会・相談活動等を充実させるとともに、進学指導重点校として第一志望合格を保証する現役主義の進路指導を充実させる。	①進路指導に関する情報を生徒及び保護者に的確に発信し、家庭との連携を図る。	①保護者、生徒による評価アンケートの結果及び情報提供の実施回数	保11	学校は、進路についての情報をよく保護者に提供している。	86.7	13.1	生徒対象の進路説明会を1年生1回、2年生2回、3年生2回実施するとともに、学年集会やホームルームにおいて進路情報の提供を行った。また、保護者対象の進路説明会を各学年2回ずつ実施し、保護者面談等においても情報提供を行った。生徒・保護者のニーズに応えるよう最新情報の提供に努めた。生徒の肯定的評価は昨年度よりも上昇している。	高大接続改革の一環として大学入試が変わることを踏まえ、生徒及び保護者には随時新しい情報を提供するとともにより具体的な説明を行なう。また、学校での指導方針、具体的な対応等について説明するなど内容については不断の見直しを図る。	① 改善方策のとおりで良い。	① 進路説明会の内容について不断の見直しを図り、生徒及び保護者には高大接続の在り方など、随時新しい情報について説明する。
				生12	佐倉高校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。	94.2	5.8				
		②職員研修を充実させるとともに、教科・学年・分掌が連携し個に応じた指導を充実させる。	②職員、生徒、保護者による評価アンケートの結果及び職員研修の実施状況及び進学講習の実施状況	職15	生徒の希望と適性を生かす進路指導ができています。	96.9	3.1	進路に係る職員研修を年間計画に位置付け、1・2年担当職員に対して4回、3学年担当職員に対して5回実施した。また、全職員対象に高大接続改革に係る職員研修を実施した。ほとんどの職員が進路指導ができていると捉えており、組織的に進路指導に取り組めた。生徒・保護者の満足度も高い。進学講習は、前期17講座、夏季休業中31講座、後期17講座を設けた。	進路に係る職員研修において、高大接続改革について最新かつ確かな情報を共有する。調査書作成についても職員研修を実施する。また、進路指導について職員で共通理解を図るための時間を確保する。進学講習については、開講数は今年度程度とし、最新の入試状況を取り入れた内容の講座を実施する。また、最新の入試情報を集めつつ、高大接続改革を踏まえた職員研修を行う。	②改善方策のとおりで良い。企業でも、若手の職員が増え、昔とは社員の意識も変化している。また、社会や顧客のニーズも変わってきている。学校も変化への対応が必要なのは理解している。学校が一体となって対応することが大事である。	② 的確な進路指導ができるよう職員研修を一層充実させる。進学講習については、開講数は今年度程度とし、個別については、個々の希望や適性に応じた指導を丁寧に行う。
				生13	生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われている。	90.5	9.4				
		③講演会等を通して、勤労観・職業観を確立し、自己の進路について考えを深めさせる。	③各種講演会の実施回数、参加人数及び実施状況	保12	生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われている。	88.4	10.7	東大教授や提携を結んだ東京外国語大学の教授の方を招き、「気付く・探る・考える」講演会を開催した。また、1年生を対象に海外理解促進のための講演会を実施した。生徒のグローバリズム・職業観の理解に効果があったと判断している。	引き続きSSH・SGHに係る講演会や卒業生を活用した講演会等を行い、更に大学や企業との連携をより一層強め、生徒の世界観・勤労観・職業観の確立に努め、進路に対する視野を広げる。	③ 改善策のとおりでよい。	③ SSH・SGHに係る講演会や体験学習等と連携しながら、勤労観や職業観を確立させる機会を充実させる。
特色ある活動	SSHとSGHの取組を充実させる。	①探究学習を通して、論理的思考力と英語による発信力を一層高める。	①探究学習の発表の状況					今年度は、新型コロナウイルスの影響で、全てのSSH海外研修、SGH海外研修(5か国)を取りやめた。2月のSSH・SGH合同発表会は、外部の方の来校を全てとりやめ実施した。全体を俯瞰すると今年度は、時間的な制約もあり研究を深める点において課題が残った。	海外の交流校や訪問機関にSGH課題研究の動画を送ってコメントをもらったり、オンライン交流するなど工夫をした。同じく国内の研究施設や大学とオンラインでの交流を深めた。研修内容を改善し、課題研究の内容が深まるよう努める。論理的思考力を高め生徒が研究を深めることができるよう指導について工夫する。	① 改善策のとおりでよい。	① 海外研修については、来年度も難しいと思われる。実施してきた内容を見直し、オンラインでの交流を一層推進する。課題研究が一層深まる研修となるよう改善する。
		②探究学習の評価方法を確立させる。	②探究学習の評価の妥当性					SSH・SGHにおいて、前年度の評価方法に改善を加え、生徒が具体的な目標を定め、具体的な評価を行い自分自身の学習課題を見つけることができるルーブリック評価を行った。妥当性については、課題研究の成果との分析が必要である。	ルーブリック評価の妥当性を検証するとともに、他校のものも参考に生徒の実態に合わせ、生徒が主体的に目標設定を行い、自己の学習状況を確認し、学習を見直せるようルーブリック評価を改善する。また、課題研究についての評価にとどまらず汎用性のあるものにする。	② 改善策のとおりでよい。	② ルーブリック評価を研究し、生徒が自己の学習状況を確認でき、次の学習に役立つ評価となるよう質を高め汎用性のあるものにする。
		③SSHとSGHの連携を一層深める。	③学科や教科を超えた取組の状況					SGHに係る探究学習において科学的視点を持つ内容の研究を行なう生徒に対し、SSHのノウハウを生かした支援を行なうなど連携を深めた。また、職員組織については、探究学習部で課題を共有しながら運営を行なった。	探究学習の基礎的な学習においては、理数科・普通科を問わず授業を実施し、学校全体で取り組む。また、職員の体制については、生徒の「学びたい気持ち」に応え、探究学習部を中心に、今後も探究活動の更なる充実を図る。SGH終了後も引き続き、職員全体で探究学習に取り組むと共に、SSH事業を普通科も含め学校全体で総力を挙げて充実させる。	③ 改善策のとおりでよい。	③ 探究学習部を中心に探究学習の基礎を学ぶ時間を実施するとともに、課題研究を学校全体で取り組む体制をつくる。